

## ■北海道大も4連勝、次節で北海学園大と優勝対決。第7節

第48回北海道学生選手権は第7節の10月9日、札幌市円山競技場で、全日本大学選手権（甲子園ボウル）の道代表争いを兼ねる1部の2試合を行った。北海道大（前年2位）が帯広畜産大（同4位）を30-12で下し、通算成績を4勝として、この日試合のなかった北海学園大と並んで首位に立った。両校は第8節の10月16日、直接対決で優勝を争う。帯広畜産大は1勝3敗。釧路公立大（同5位）は21-18で北星学園大（同3位）を下した。通算成績は釧路公立大が2勝2敗、北星学園大は3敗となった。



北海道大は第1Q10分にRB榊琢也（3年、札幌東高）の33ヤードTDランで先制すると、第2QはQB茨木大輔（4年、兵庫・六甲学院高）の10ヤードキープとWR/K日高耀（3年、福岡・北筑高）の26ヤードFG、第3QはQB茨木からWR日高への3ヤードパス、第4QはRB鈴木優太（4年、東京・桐朋高）の4ヤードTDランで加点した。帯広畜産大は第4Q3分にQB外崎智文（2年、大野農業高）からWR卯野優翔（1年、兵庫・洲本高）への28ヤードパス、9分にRB三島太呂（4年、帯広農業高）の1ヤードダイブで2TDを返したが及ばなかった。

北海道大の西尾慎太郎HCは「エースRBを温存し、オーソドックスなプレーに徹した。北海学園大戦に向けて準備したプレーの完成度を高めたい」と

次週に向けた課題を強調。先制TDのRB榊は「まだ走りは不十分。これでは北海学園大に勝てない」とレベルアップを決意し、主将のLB坂田宙斗（4年、東京・都立小山台高）も「気持ちで負けず、攻撃が苦しい時は守備が、守備が苦しい時は攻撃が頑張っ勝ちたい」と北海学園大戦に向けて力を込めた。



一方、帯広畜産大の栗田虎之介HCは「ラインが足りない中でここまで戦えた。QB外崎が長いパスを投げられた。地元で開かれる最終戦につなげたい」と収穫を挙げ、初TDキャッチのWR卯野は「TDはめちゃくちゃ気持ち良かった。次戦もTDを狙う」と宣言した。

北星学園大ー釧路公立大はパスの投げ合いになった。先制したのは北星学園大。第1Q3分、QB中手龍一（3年、札幌静修高）からWR中田大翔（2年、北星学園大付属高）へ11ヤードTDパスを決めた。釧路公立大は第2Q3分、QB山口響生（2年、札幌清田高）からWR高坂駿佑（2年、滝川西高）への3ヤードパスで7ー6と逆転。第3Q3分には北星学園大のQB中手がWR小坂峻祐（4年、北星学園大付属高）へ8ヤードパス、同9分にRB箕浦空哉（2年、帯広緑陽高）の1ヤードダイブで18ー7と再逆転した。11点差を追う釧路公立大は第4Q2分、QB山口からWR山本来紀（1年、青森西高）への25ヤードパスと、同6分のRB牧野幹大（3年、札幌藻岩高）の3ヤードTDランで3度目の逆転。その後の北星学園大の追撃を封じて逃げ切った。



釧路公立大の高木瞭HCは「第4Q終盤にゴール前まで攻め込まれたが、守備が最後まであきらめなかった。高坂のインターセプトから逆転に成功したが、流れを変える選手だ。残る東京農業大戦に勝ち、3位を目指したい」と力を込め、WR高坂も「東京農業大戦に向けてパシュートやインターセプトなどきょうの課題を全員で改善したい」と宣言した。一方、北星学園大の池田伊織HCは「トライフォアポイントの失敗が痛かった。ロングパスに油断があった。あと2試合、勝負強さとプレーの完成度を高めたい」と決意し、1TD、3インターセプトと気を吐いたWR小坂は「パスは取って当たり前。ここぞという時に集中できる。残り試合も自分の仕事をすれば、結果は付いてくる」と自信を見せた。

